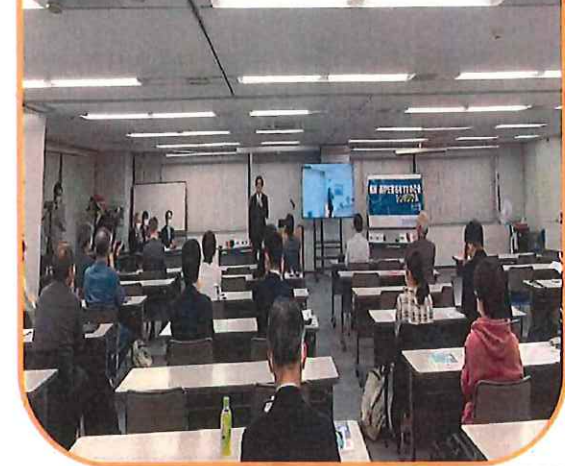




現在、介護ウェーブ、ナースアクションに続いて、ドクターズ・デモンストレーション(DD)が全国で取り組まれています。4月1日から始まった「医師の働き方改革」は、医師を増やすことなしにこの取り組みを進めており、このことは医師労働として認める労働とそうでないものの区分けや働き方が制限される中で救急の場合などは患者さんの命にかかわることになりかねません。今回のDDは、医師ふやせと合わせて診療報酬できちんとささえることや、研究者の方がしっかり研修できるようにということも求めています。医師・医学生から最低でも5万筆の署名を集めようと提起されています。



原田院長が、大阪で現地参加しました。



医師増やし医療守れ

大阪医師・医学生らシンポ

医師不足問題に正面から向き合おうと、医師増員を訴えるシンポ講演する本田氏(正画)ら16日、大阪市中央区

シウムが6日、大阪市内で開かれ、現役医師や医学生ら160人超が交流しました。主催は「医師・医学生署名をすすめる会」。短編映画「公的医療

は「どこへ行く」の上映後、20年以上医師不足問題を訴えている本田宏・医療制度研究会理事長が記念講演。医療事故や医師の過労死、医療へのアクセス悪化などの根本に国の医療費抑制策があると指摘し、「医師増員を求め、署名を成功させ、人権としての医療、成長産業としての医療を守ろう」と訴えました。

リレートークで大阪府保険医協会の宇都宮健弘理事長は「シエン

ダシ、若手医師の意識問題などにも取り組むことが必要だ」と強調。地域医療・介護研究会JAPANの邊見公雄会長は「地域包括医療・ケアの時代に生命を輝かせよう」と、北欧並みに医療費を大きくさせよう」と訴え、オンライン参加の医学生が「初心を忘れず仲間を支え合う」ことが大切だと語りました。全日本民医連の増田剛会長が閉会あいさつで、「医師増員の署名運動を大きく広げよう」と呼びかけました。